



たけなか きよし

竹中 清 氏

生 年 昭和16年

住 所 田辺市中辺路町栗栖川

氏は、地方文化の担い手である「書店」や「新聞販売業」を生業とし、多忙な業務の余暇を「～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会（以下「いちいがしの会」という。）」の活動に投じ、熊野の山々での植樹を中心としたボランティア活動に熱心に取り組むなど、熊野の自然と人々の暮らしをつなぐ「森づくり」の実践者として、長年にわたり地域の環境保全に邁進してきた。

氏が、子供のころから親しみ、当たり前のように知っていたと思っていた自然の風景の中に、生態の不思議や魅力を見つける喜びを知ったのは、南方熊楠特別賞や田辺市文化賞など数々の賞を受賞された故・後藤伸氏との出会いがきっかけである。

熊野の森や自然の大切さについて学んでいくうちに、植樹活動だけでなく、生き物や植物など様々なことに興味が湧き、植樹活動を通して山に行くことを楽しみ、今も生きがいとして活動を続けている。

「照葉樹林の復活」を目指して設立された「いちいがしの会」では、氏は仲間と共に設立当初から活動に携わり、平成16年に会長を引き継ぐと、以後16年にわたりその中心的な役割を担ってきた。設立から現在に至るまで、氏の活動は28年に及び、会員は市内のみならず全国各地に広がっている。当時20人で設立された会員数も300人を超えるなど、同会は大きく発展を遂げてきた。

人一倍、地域の自然を愛好し、熊野の森、身近な自然に触れる中で、毎年のように発生する豪雨による大規模な土石流や山崩れに強い危機感を抱き、保水力のあった熊野の本来の森林の姿を少しでも取り戻そうと、行き過ぎたスギ・ヒノキの人工林による山の脆弱性を改善すべく、荒廃した人工林を自然林に戻すために巻枯らし間伐を行い、地元で自生するイチイガシやアラカシ、シラカシ、ウバメガシなどの常緑広葉樹の種をまき、苗を育てて植樹するなど、「熊野の本来の森の姿」にこだわり、自然の営みに寄り添った方法を実践してきた。

また、氏は単なる植樹活動にとどまらず、自然観察会や環境講座の開催を通じて、地域住民や若い世代への環境教育にも力を注いできた。平成12年の旧中辺路町時代に結成した「中辺路子ども環境探偵団」は、本年度で26年目を迎え、山や川、身近な自然環境問題をテーマとして、町内の小中学生を対象に、熊野本来の森の様子や人

第 56 回 (令和 7 年)

の営みの大切さを語り続けている。

このほか、令和 5 年には、「いちいがしの会」を母体として N P O 法人に認証されるなど、氏の活動は地域に根ざした持続可能な自然保護のモデルへと発展を遂げている。

このように、照葉樹林の回復に向けた諸活動を展開することにより、本来の自然を取り戻すための道筋を切り開くとともに、熊野の豊かな自然環境の保全はもとより、人々の心に自然への敬意を育む意識の高揚にも尽力してきた氏の功績は誠に多大である。

(学 歴)

昭和 36 年 和歌山県立田辺高等学校卒業

(職 歴)

昭和 36 年～ 竹中書店 (家業)、現在に至る

(主な活動等)

平成 9 年 「～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会」設立
設立当初から活動に携わり、熊野の照葉樹林の保全と復活を目指して、植樹を含む保全活動や環境意識の啓発など広範囲な活動を展開、現在に至る

平成 12 年 「中辺路子ども環境探偵団」結成、講師として活動、現在に至る

平成 12 年 第 16 回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会・シンポジウム (中辺路町) において実践活動発表を行う

平成 16 年 「～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会」会長に就任

平成 18 年 田辺市生涯学習振興大会シンポジウム (田辺市) においてパネリストを務め、森林環境の保全を訴える

平成 20 年 いちいがしの会設立 10 周年記念大会 (田辺市) を開催

(役職等)

平成 13 年～ 紀の国環境モニター

平成 15 年～ 中辺路町立中辺路中学校評議員 (現 田辺市立中辺路中学校) (平成 30 年まで)

平成 16 年～ 「～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会」会長 (令和 2 年まで)

平成 25 年～ 和歌山県自然公園指導員

(受賞歴)

平成 18 年 「～熊野の森ネットワーク～いちいがしの会」会長として緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞

平成 21 年 環境美化推進活動表彰を受賞 (田辺市環境美化連絡協議会)

平成 24 年 教科書供給功労者文部科学大臣表彰を受賞

平成 27 年 春の褒章にて黄綬褒章を受章